

第1回7月 東北大本番レベル模試(2019年7月7日実施)

採点基準 英語

*この採点基準では、特に部分点・別解の判断を要する問題のみ取り上げています。

| 英語 配点表 | | | |
|--------|------|-----|-----|
| 大問 | 配点合計 | 小問 | 配点 |
| I | 60 | 1 | 10 |
| | | 2 | 12 |
| | | 3 | 12 |
| | | 4 | 14 |
| | | 5 | 3×4 |
| II | 60 | 1 | 12 |
| | | 2 | 10 |
| | | 3 | 15 |
| | | 4 | 11 |
| | | 5 | 12 |
| III | 40 | 1 | 4×3 |
| | | 2 | 5×2 |
| | | 3 | 18 |
| IV | 40 | (A) | 20 |
| | | (B) | 20 |

大問 I, II 設問形式別採点原則

〔和訳形式〕

- (1) 基本的にはすべての部分的誤りと語句の無視は、個別に指定が無い限り -2 。
- (2) 個別に指定許容された箇所以外のカタカナ訳は不可で 一語につき -2 とする。
- (3) 和訳という指示に従わず英単語をそのまま書いているものは、一語につき -2 とする。
- (4) 日本語の誤字は、別の意味にとられてしまうケースは -1 で、他は許容。
- (5) 各採点区分内で指定の点数を超えた時点で減点を行わない。
- (6) 区分された単位で意味が成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を0点。
- (7) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

〔内容説明形式〕

- (1) 基本的に下記の(3)(5)以外のすべての誤りは、個別に指定が無い限り -2
- (2) 語句の意味を誤ったものは個別に指定が無い限り -2
- (3) 採点枠内が部分的減点が難しいレベルで誤っているものは、配分点をすべて引く。
- (4) 個別に指定されたものと全訳で使われたものを除いてはカタカナ訳は不可で -2 。
- (5) 日本語の誤字等は、同音の別の意味にとられてしまうケースは -1 で、他は不問
- (6) 各配点区分において、区分点を越えた減点を行わない。
- (7) 二重の減点を避ける必要がある場合、必須要素と無関係の部分からとった不要要素は無視し、必須要素の有無と正誤のみで採点。
- (8) 解答文の結びの巧拙は、減点対象としない。
- (9) 各採点区分の中で、途中で立ち消えた解答は、その区分については0点。解答が途中で終了していても、区分単位で完成しているものは採点対象。

大問 I

問1 説明問題(10点)

【解答例】

アメリカでは1,500万もの世帯が食料不安定に分類されているのに、世界の気候に変動を及ぼすような大規模な食料廃棄が行われているのは理不尽である。

【採点区分】

[A] The waste of nutrition and resources on that scale makes little sense について on that scale を説明しつつ述べているか (5点)

- (1) The waste of nutrition and resources は逐語訳でも「食料廃棄」系の表現でも可
- (2) 「大規模な[地球規模での]」と「食料廃棄」の欠如 ⇒それぞれ (-2)

(3) 「世界の」と「気候変動」の欠如 ⇒それぞれ (-2)

↑ 8 percent of the world's greenhouse gas emissions の中の具体情報で述べても可

例) 世界中の温室ガスの8%を[も]占める

(4) makes little sense の誤訳 ⇒ (-2)

↑許容例) 「おかしい」「理解に苦しむ」※ littleは完全否定で訳しても可

[B] when 15 million American households have been classified as food-insecure の正しい意味の説明 (5点)

(1) when を「～なのに[だが]」という語感で読めていないものも△で許容

↑「時に」が代表例

(2) 15 millions は「膨大な(数の)」などで漠然と述べても可

(3) 「アメリカ」の欠如 ⇒ (-2)

(4) food-insecureは「食べ物に不自由している」ことが分かるものは甘めに認める

例) 「食べることで心配している」

注) 「恒常的に飢えている」のニュアンスは△で許容

許容例) 「ひもじい思いをしている」「食に事欠いている」

(5) classified は逐語訳ではなくて「～だとされている」も可

問2 下線部和訳 (12点)

【解答例】

ますます多くの食料廃棄対策企業や慈善団体が、人々が自身の食料廃棄を減らす支援をし、また必要とされない食べ物が必要とされている場所に確実に届けられるように努めてきている。

【採点区分】

[A] An increasing number of food waste companies and charities have been trying to

(4点)

(ますます多くの食料廃棄対策企業や慈善団体が ように努めてきている)

(1) 「～する...が増えてきている」のタイプの訳も可

(2) food waste company は「食料廃棄企業」のような直訳も可

(3) food waste が charities にもかかっているように見えても許容

(4) charities は「チャリティー(団体)」とカタカナを交えても可

(5) 「努めてきている」は「努めて[努力して]きた」でも可

[B] help people cut their own food waste (4点)

(人々が自身の食料廃棄を減らす支援をし)

(1) help は「助ける」「促す」「助長する」も可

- (2) cut は「減らす」系の意味以外は不可
- (3) own は訳出していなくても可
- (4) their が指す対象はあいまいでも好意的に解釈してやってよい

[C] and also ensure unwanted food makes its way to where it is needed (4点)

(また必要とされない食べ物が必要とされている場所に確実に届けられる)

- (1) and also の訳がなくても、自然に順接で流れていれば可
- (2) unwanted は「望まれない」は不可
- (3) makes its way は「届く」としても可
- (4) where は the place where の意味でとれていないと不可

問3 説明問題(12点)

【解答例】

アメリカは世界で最も食料廃棄が行われている場所であると同時に、そのことに対する人々の問題意識が高まり、その問題に対処しようとする企業への多大な投資が行われている場所でもあるということ。

【採点区分】

[A] アメリカは世界で最も食料廃棄が行われている場所であると同時に (5点)

- (1) 「アメリカ[合衆国]」の欠如 ⇒ (-2)
- (2) mostを「ほとんどの」としたもの ⇒ (-2)
- (3) 「食品廃棄」の相当語句の欠如 ⇒ (-4)

[B] (そのことに対する) 人々の問題意識が高まり (3点)

- (1) awareness は単に「意識」「自覚」でも可
- (2) awareness に対応する内容が欠如 ⇒ (-3)
- (3) public は「一般の」「公衆の」「大衆の」も可
- (4) 「高まり」は「目につき」など see を生かした表現も可
- (5) I see を「私は目にする」としたものは不可

[C] その問題に対処しようとする企業への多大な投資が行われている (4点)

- (1) companies tackling ...は「意味上の主語 + 動名詞」と解釈して「企業が ...に取り組むこと」と述べても可
- (2) tackle はカタカナ不可
- (3) 「企業」「投資」の相当語句の欠如 ⇒ それぞれ (-2)
- (3) big の相当語句の欠如 ⇒ (-1)

問4 下線部和訳 (14点)

【解答例】

食料廃棄問題がどの企業や政府にも策がなく、新聞報道もなされない、取るに足らない問題から、食料廃棄に関する戦略なしには大企業にはなれないというところにまで短期間で到達したという事実に希望がある

【採点区分】

[A] The hope lies in the fact that (3点)

(という事実に希望がある)

- ① lie を「横たわる」は不可
- ② Theを「その」と訳出したものは△で許容
- ③ 「希望がもてるのは～という事実だ」も可

[B] in a short space of time food waste has gone (3点)

(食料廃棄問題が 短期間で到達した)

- ① food waste が「食料廃棄物」「廃棄食料」と訳されたもの ⇒ (-1)
- ② gone が from A to B とつながらない「行った」などの訳 ⇒ (-2)

[C] from a non-issue without any corporate or governmental policy or press coverage

(4点)

(どの企業や政府にも策がなく、新聞報道もなされない、取るに足らない問題から)

- ① non-issue は「どうでもよいこと」「関心の薄い話題」「話題にならないこと」など文脈にあった類推は広く認める
- ② anyは明確に訳出していなくても可
- ③ corporate が policy にかかっていないことが明らか ⇒ (-2)
例) 「企業あるいは政策」
- ④ A or Bが「AもBもない」という否定で理解できていない ⇒ 一回につき (-1)
- ⑤ press coverage は「マスコミ報道」に類することだと類推できていれば可
例) 「報道」「新聞記事」
注) 「テレビ」に限定して述べたもの ⇒ (-1)

[D] to a place where you cannot be a big company without having a food waste strategy,

(4点)

(食料廃棄に関する戦略なしには大企業にはなれないというところにまで)

- ① place を「場所」としたもの ⇒ (-2)
- ② you を「あなた」などに訳出したものは許容

- ③ beは文脈に沿って「に成長する」なども可
- ④ a food waste strategy を「食料廃棄戦略」と直訳したものは許容

大問Ⅱ

問1 和訳問題 (12点)

【解答例】

アデロールは注意欠陥障害に何年にもわたり処方されてきており、最近では過密スケジュールで睡眠不足の多数の学生にとって、難解な研究論文や複雑な実験に彼らが長時間にわたって集中できるようにしてくれるので、必需品となっている。

【採点区分】

[A] It has been prescribed for attention deficit disorder for years (4点)

(それ[アデロール]は注意欠陥障害に何年にもわたり処方されてきており)

- (1) prescribed は「投与される」「与えられる」「用いられる」も許容
- (2) attention deficit disorder は各単語の意味がとれていれば実際にはない訳語も可
例) 「不注意症」
- (3) for years は「長年」「数年間」どちらも許容

[B] and recently it's become a staple for numerous overscheduled, sleep-deprived students (4点)

(そして最近では過密スケジュールで睡眠不足の多数の学生にとって必需品となっている)

- (1) has become は「なった」でも可
- (2) staple for は「～にはつきもの」など文脈に合致するものは辞書にない訳語でも許容
- (3) 「オーバースケジュールな」というカタカナ訳は許容

[C] because it allows them to focus for long stretches on a heavy research paper or complex lab work (4点)

(難解な研究論文や複雑な実験に彼らが長時間にわたって集中できるようにしてくれるので)

- (1) them は訳出していなくても可
- (2) focus for ~ on....のつながりが見抜けず支離滅裂になっているものは、一括して(－3)とする
- (3) heavy を「重い」としたのも ⇒ (－2)
- (4) research paper は「レポート」「提出物」など students と調和するものは広く許容
- (5) lab work は「研究」「実習」など students と調和するものは広く許容

(6) この節全体がかかる対象が誤っている ⇒ (－2)

問2 説明問題 (10点)

【解答例】

アデロールを服用すると、気を散らせ集中を妨げる脳内の部位が機能を停止するという
こと。

【採点区分】

[A] アデロールを服用すると (2点)

(1) 「アデロールのせいで[おかげで]」も可

[B] 気を散らせ集中を妨げる脳内の部位が機能を停止するということ (8点)

(1) e-mails についての記述を一般化できずそのまま用いている ⇒ (－2)

(2) 「気を散らせる」「集中を妨げる」はどちらかの相当語句があれば可
↑どちらもないと (－2)

(3) 「脳」「部分」の欠如 ⇒ それぞれ (－2)

(4) apparently (どうやら～らしい)は「明らかに」でも許容

(5) shut down は「オフになる」「スイッチが切れる」など機械になぞらえても可

問4 (11点)

【解答例】

アデロールが服用者を関心事に過度に集中させるように、個人向けフィルターの発達に
よってインターネットユーザーが関心を持つ分野以外の情報に接する機会が減り、結果と
して創造性が損なわれてしまう社会。

【採点区分】

[A] アデロールが服用者を関心事に過度に集中させるように (3点)

(1) 「服用者を」は「人を」でも可

(2) 「過度に」「異常に」などのマイナスの強調の欠如 ⇒ (－1)

(3) 「集中」の相当語句の欠如 ⇒ (－2)

[B] 個人向けフィルター (の発達) によってインターネットユーザーが関心を持つ分野以外
の情報に接する機会が減り (5点)

(1) 「個人向けフィルター」の相当語句の欠如 ⇒ (－2)

注) 「パーソナライズドフィルター」とカタカナで述べても可

注) 「個人向け」が欠如した「フィルタリング」「フィルター」は許容だが△を付す

(2) 「インターネットユーザー」は単に「人間」「人」でも可

(3) 「関心のある分野」の相当語句の欠如 ⇒ (－2)

注) 「知りたいこと」「(個人的)興味の対象」なども可

(4) 「接する情報の範囲[種類]が狭まる」という内容を含まない ⇒ (-3)

[C] (結果として) 創造性[力]が損なわれてしまう社会 (3点)

(1) 「創造性[力]」の欠如 ⇒ (-2)

(2) 「創造」を「想像」としたもの ⇒ (-1)

(3) 「社会」を含まないもの ⇒ (-2)

問5 (12点)

【解答例】

(個人向け) フィルターによって知りたい情報がふんだんに提供されるので、(自分で) 苦勞して情報を探さなくなってしまうということ。

【採点区分】

[A] (個人向け) フィルターによって知りたい情報がふんだんに提供されるので (8点)

(1) 「(個人向け) フィルター」または「フィルタリング」の欠如 ⇒ (-3)

(2) 「知りたい」または「興味のある」の相当語句の欠如 ⇒ (-2)

(3) 「ふんだんに」や「たっぷりと」の代わりに、「簡単に」や「苦勞せず」でも可

[B] (自分で) 苦勞して情報を探さなくなってしまうということ (4点)

(1) 「自分で[自力で]」があれば「苦勞して」や「わざわざ」はなくても可

(2) 「探さなくなってしまう」の代わりに「探す必要がなくなる」も可

大問Ⅲ

問3 英語による意見の陳述 (18点)

【英語面での減点の原則】全ての誤りを、その都度減点します。

(1) スペル、大文字小文字、記号の誤り ⇒ 一律 -1

(2) 単語の誤り ⇒ -2

(3) 冠詞と名詞の数の誤り ⇒ -1 辞書上で該当する意味で U C 共にあり得る名詞は、厳密には不適切なケースでも△で指摘にとどめる。

(4) 文法的誤り ⇒ -2

(5) 英文として不成立で部分的減点が難しい場合は、「句・節」単位での一括減点 -4

(6) 原文からの語句レベルの引用は可。但し、文単位で一語一句すべて丸写しは「文写し×」とし 7点 ずつ引いていく。

(7) 設問と無関係な解答は0点。

(8) 語数制限無視 ⇒ 自動的に0点

【解答例】

(In my experience,) listening to music tends to help me forget things that cause me stress. I generally listen to music for this purpose while taking a bath or before going to bed. I usually choose and listen to jazz piano solos by Bill Evans because they do calm my mind.

(48 words)

【採点区分】

[A] 音楽を聴くことが自分の生活に及ぼす好影響 (6点)

設問指示 : Point out one of the positive effects listening to music has on your life other than those mentioned in the passage.

解答例 : (In my experience,) listening to music tends to help me forget things that cause me stress

(1) your や書き出しの “my” とつながらない語句 ⇒ (−2)

例) human beings tend to

(2) listen to を hear にしたものは許容

(3) 会話の中で述べられていることと同じ内容 ⇒ (−4)

右記の4つが減点例) ・疲れがとれる ・頭がよく働く ・痛みが和らぐ ・元気になる

許容例) ・悩みを忘れる ・気分が安定する ・寝つきがよくなる etc

[B] 普段いつ音楽を聴くか(6点)

設問指示 : You must also mention when you usually listen to music ..., in order to benefit from the effect

注) the effect は[A]で述べた内容を指す

注) in order ...の前にコンマがあるので、不定詞は listen にもかかっていると解釈する

解答例 : I generally listen to music for this purpose while taking a bath or before going to bed

(1) for this purpose 部分はなくても可

(2) 現在形で書いてあれば usually/generally/tend to など「普段」「傾向」系の語句はなくても可

(3) listen to を hear にしたものは許容

(4) when は「1日の中でいつ」「週の中でいつ」「どんな気分の時に」など広く認める

(5) [A]で述べた effect とかみ合わない内容 ⇒ (−2)

(6) 複数の時間帯や時期について述べていても可

[C] どんな音楽を選ぶか(6点)

設問指示 : and what kind of music you tend to choose, in order to benefit from the effect

注) the effect は[A]で述べた内容を指す

解答例 : I usually choose and listen to jazz piano solos by Bill Evans because they do calm my mind.

- (1) 現在形で書いてあれば usually/generally/tend to など「普段」「傾向」系の語句はなくても可
- (2) kind of music の例は、「ジャンル」「作曲家」「演奏家」「音楽のタイプ（「静かな」「明るい」など）」のどれでも可
- (3) 選ぶ理由や目的はなくても可
- (4) [A][B]と重複する内容が部分的に含まれていても許容
- (5) [A]で述べた effect の内容とかみ合わない内容 ⇒ (-2)
- (6) 複数の種類の音楽や演奏家について述べていても可

大問Ⅳ

【減点の原則】

- (1) スペル、大文字小文字、記号の誤り ⇒ 一律 -1
- (2) 単語熟語の誤り ⇒ -2
※語単位の訳漏れも一つにつき -2
- (3) 冠詞と名詞の数の誤り ⇒ -1 辞書上で該当する意味で U C 共にあり得る名詞は、厳密には不適切なケースでも Δ で指摘にとどめる
- (4) 文法的誤り ⇒ -2
- (5) 各採点区分内で指定の点数を超えた時点で減点を行わない
- (6) 区分された句、節が英文として成り立たず、部分的減点が困難な場合は、その区分全体を 0点 としてよい

(A) (20点)

〈解答例〉

〔例①〕

But now I think that the two proverbs are both very useful to us in making sound decisions. Sometimes we have to take some risk in order to get something very valuable, but at other times it is wiser to take safety measures.

〔例②〕

I think now, however, both of the proverbs do help us make the right decisions. In some instances, we should adopt a risk-taking attitude to acquire something of great value. But, in other instances, we should take a safer option.

【採点区分】

[A] しかし今は2つのことわざはどちらも私たちが決断を正しく行う際に大いに有益なのだと考えている (7点)

(1) now の欠如は△で許容

(2) 「2つのことわざ」に the がない ⇒ (-1)

(3) 「ことわざ」は sayings, bywords, dictums, adages など可

注) 他に出てきたら、その都度必ず辞書で確認してください

(4) 「どちらも」は訳出していなくても可

注) each[either] of ...は「どちらも」とみなし許容

(5) 「決断を正しく行なう」の許容例 ←この部分での冠詞と単複は甘くみまず

・ choose (the) right options / reach [come to] (a/the) right decision / decide rightly

注) do + decision で「決断する」は不可

(6) 「する際に」の許容例

・ 不定詞 ・ for doing ・ when 節 ・

(7) 「大いに」が全く欠けている ⇒ (-2)

(8) 「大いに有益なのだ」の許容例 ←ナチュラルでなくとも文法と辞書レベルでの語彙ミスがなければ許容します

・ do us a lot of good ・ have very good effects on us ・ be very beneficial [instructive]

[B] 非常に価値あるものを得るために何らかの危険を冒さなければならないこともあるのだが (7点)

(1) 「のだが」の減点は、[B][C]のどちらで(採点しやすい方で)引いても可

(2) 「非常に」の欠如 ⇒ (-2)

(3) 「非常に価値がある」の許容例

・ very precious ・ very important ・ essential ・ indispensable ・ vital

・ count very much <自動詞>

(4) 「何らかの危険を冒す」の許容例

・ run a[some] risk ←不定冠詞または無冠詞複数形で「何らかの」の代用にしても可

↑ <some + 可算名詞の単数形>で何らかのとしても可

・ do something dangerous

[C] 安全策をとる方がよい場合だってある (6点)

(1) 「安全策をとる」の許容例

・ give the first priority to safety ・ take a safety-first policy

・ play it safe ・ try to avoid danger

注) 「策」の逐語訳にこだわる必要はない

(2) [B]の内容との対照性を表すくふうが全くないものは (－ 2)

許容例) ・ 「逆接」の接続詞や副詞 ・ on the other hand

(B) (20点)

〈解答例〉

〔例①〕

In order to get along in the world, we have to make a consistent effort to foresee the future. However, it is needless to say that foreseeing the future accurately in this ever-changing world is awfully difficult.

〔例②〕

We should keep trying hard to anticipate the future in order to cope with the world. However, of course [needless to say], it is very difficult to anticipate the future accurately in the world (that is) constantly[always] changing.

【採点区分】

[A] 世の中を渡っていくためには (4点)

(1) 「世の中を渡っていく」の許容例

- ・ live[lead] a safe[secure, stable] life ・ get on in the world
- ・ navigate the world ・ go through the world

注) go through **with** the world は不可

(2) 「世の中を渡っていく」の誤答例 ← 1つの熟語とみなして2点以上引かない

- ・ walk[go] across [over, through] the world ・ cross the world

[B] 将来を予測する努力を怠るわけにはいかない (6点)

(1) future の冠詞 ⇒ the future は当然ながら正しいが、< the futures, futures, a future > は△で許容

(2) 「予測する」の許容例

- ・ forecast ・ predict ・ make (a) forecast[prediction] of ・

注) estimate と make an estimation of はこの文脈では不適切 ⇒ (－ 1)

(3) 「努力を怠るわけにはいけない」の許容例

- ・ should not fail to try to ・ It is bad to neglect the effort to ...
- ・ must not stop trying to

[C] とは言え、絶えず変化する世の中で将来を見通すということは、言うまでもなく、おそろしく困難なことである。(10点)

(1) 「絶えず変化する」の許容例

- ・ which [that] often changes ・ changeable ・ uncertain

・ variable

・ fluctuating

注) 形容詞自体に「変化しやすい」の語感がある場合は「絶えず」はなくても可

(2) 「見通す」は単に「予測する」だけでなく、**accurately, rightly, justly** などの副詞をつけて欲しいところ ⇒ 欠如は△で許容

(3) 「世の中」の **the world** の **the** の欠如 ⇒ (-1)

(4) 「恐ろしく」は **terribly, dreadfully** も可

注) **badly difficult** は不自然だが許容